

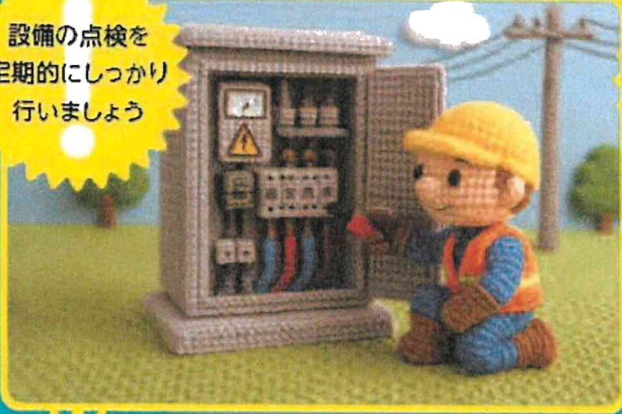
8月1日～31日は「電気使用安全月間」です !!

毎年8月1ヶ月間は電気使用安全月間です。令和8年度は次の5つを重点活動テーマとしています。

- 1 見えない電気の危険を知り、配線やコンセントを見直すことで感電・火災を防ぎましょう
- 2 無資格者の電気工事は法令違反です。必ず電気工事士の資格を持った方に依頼しましょう
- 3 電気設備の点検作業を行う際は、安全に保守点検が行えるような対策を構築しましょう
- 4 受変電設備に立ち入る際は、事前に電気主任技術者に連絡しましょう
- 5 地震、雷、風水害などの自然災害に備えた電気設備の対策を講じ、安心安全な生活を守りましょう

あなたが防ぐ電気事故

設備の点検を定期的にしっかり行いましょう



暴風雨に備え飛来物防止対策をしましょう



火災の危険があるタコ足配線はやめましょう



汗による感電に注意しましょう



電気を正しく使って安全な生活を!



電気使用安全月間

2026年8月1日～31日

主唱：経済産業省

見直そう! 毎日の電気の使い方



1. 組合事務局の“夏季休業日”について(再掲)

今年の夏季休業日は次の9日間です。

8月 8日(土)～16日(日)

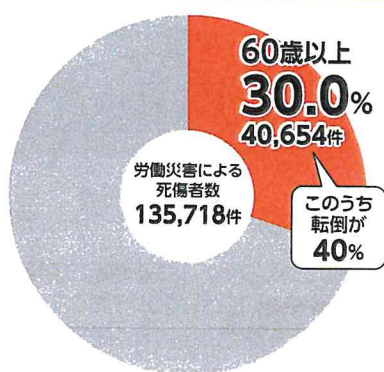
2. 高年齢労働者の労働災害防止対策に取り組みましょう

労働安全衛生法が改正され、令和8年4月より、高年齢労働者の労働災害防止対策が事業者の努力義務として位置付けられました。高齢化が進む中、年齢を重ねても元気に、安全に働き続けるためには、日頃からの健康づくりがますます重要になっています。将来も生き生きと働くために、若いうちから健康管理に取り組みましょう。

高年齢者の労働災害の特徴

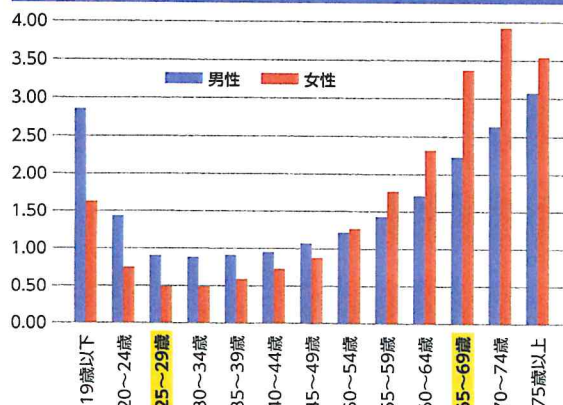
出典：労働者死傷病報告(令和6年)
※新型コロナウイルス感染症へのり患によるものを除く

年齢別の労働災害による死傷者数
(休業4日以上、令和6年)



高齢化に伴い、労働災害による休業4日以上死傷者数のうち、60歳以上の労働者の占める割合が増加しており、中でも「転倒」が最も多く、全体の約40%を占めています。

性別・年齢層別労働災害発生率
(休業4日以上死傷災害の度数率、令和6年)



休業4日以上の労働災害は、年齢が高くなるほど多くなっています。度数率を見ると、65～69歳では、25～29歳と比べて男性は約2.5倍、女性は約6.9倍と高くなっています。

なぜ高年齢者は労働災害が起きやすいの?

加齢に伴い、筋力やバランス感覚、柔軟性、視力などの身体機能は徐々に低下します。そのため、つまずきや転倒が起きやすくなるほか、とっさの動作への対応が難しくなり、労働災害につながる可能性があります。

こうした災害を防ぐためには、若いうちから健康状態を把握し、運動習慣や生活習慣を整えることが大切です。

今から実践! 元気に働くためのポイント

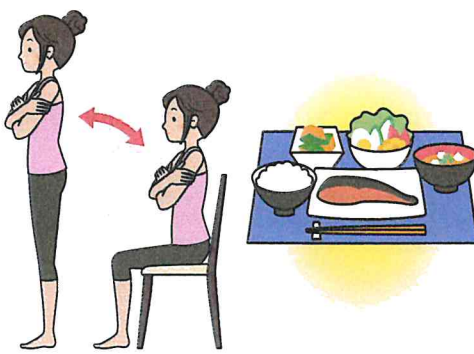
1 健康診断の受診

- 職場で実施される健康診断を必ず受診する
- 健康診断の結果を確認し、血圧や血糖値などの変化に応じて、食事や運動習慣の見直しや医療機関の受診につなげる



2 生活習慣の改善

- 日頃からスクワット運動やストレッチを行い、足腰の筋力や柔軟性を維持する
 - 栄養バランスの良い食事を心掛けるなど、生活習慣を見直す
- ★ 身体活動の少ない人ほど、少しの運動で大きな健康増進効果が期待できます!



3 身体機能の把握

- 職場で行われる体力測定や、身体機能のセルフチェック表などを活用し、自身の筋力や歩行能力を確認する
- 加齢による体の変化を理解し、無理のない範囲で体力の維持・向上に取り組む

動画でチェック!
「転びの予防 体力チェック」
(中央労働災害防止協会)



4 職場や地域の取り組みに参加

- 職場や地域で行われるラジオ体操や運動セミナーなど、取り組みに積極的に参加する
- 健康に関する情報に関心をもち、日頃の行動に活かす